

十勝岳

1993. 5. 15

馬場

アトラストレックの大雪連峰スキーツアに参加を申込んだ。ところが参加人員が少なくて中止になってしまった。そのかわり、田家さんが現地主催の十勝岳登山とスキーツアがあるというので参加した。

九時羽田を出発、北海道新聞社内、道新文化センターに着く。ガイド役六名を含めて六十名、全部現地の人達だ。大型バスで白金温泉、国立青年の家に着く。二段ベッドの大部分に泊まる。

明日の天気が心配だが吹雪の予報で良くない。

5. 16

七時半、バスで出発。風も強く雪で視界が悪い。望岳台900M地点の駐車場に着く。レストランも無人で吹雪で-5°以下の寒さだ。素手でシールを着けていると手がかじかんでくる。いよいよ出発だ。スキー組は十一名、カンジキ組の方が多い。左側のリフト沿えに十五度ほどの斜面を登行する。

現地の人の説では、リフトは、鉱山用にできたもので、許下がでていないので動かないとのことだ。

前の人から離れると見えなくなるので必死だ。気温も次第に低くなり風雪も強くなる。二本目のリフトを過ぎると斜度も少しすつ急になる。リフト終点、1250Mに着く。そこから十分位行くとほっかり避難小屋がある。

急いで中に入る。昨日登って小屋にテントを張っている三人の若者に会う。

遅れてカンジキ組が着く。リーダーの川越さんが、行くところまで行くことになり、自信がない人は小屋に残ることに決議した。

日出帽、オーバーアロンなど持てこないので夕焼けにいた。十一名 小屋で待機する。テントの三人も登頂頂をおきらめて下山した。動かない、と寒いので足踏みをして過ごす。何回か外に出てみたが盤吹雪だ。弁当を食べたが冷くて食欲がない。

登山組もほほを真赤にして寒さに帰ってきた。昭和噴火の近くまで登ったらしい。凍傷寸前だったそうだ。

登山組も弁当を食べ下山する。全員も適当で晴天なら新雪を快調に滑れるのが、視界が悪く吹きだまりもあり慎重に下降するだけだ。

それでもスキー組の方が早く望岳台の駐車場に着いた。

次の日、好天なられ懐の近くの山をスキーツアに連れて行くとリーダーの川越さんが約束してくれたが朝 ホテルから電話したがやはり天気が悪く無理だった。

コースタイム
望岳台 8:00 - ----- 避難小屋 10:30 ~ 12:30
~~~~~ 望岳台 14:00

